



令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果について

先日の一小祭では、PTA の役員の皆様をはじめ、新潟薬科大学の皆様、多くの保護者の皆様に御協力いただき、子どもたちの思い出に残る行事となりました。

さて、4 月に 6 年生を対象として行われた全国学力・学習状況調査の結果が届きました。当校の子どもたちの状況をお知らせします。結果を分析し、今後の指導改善に生かしてまいります。



ステージ発表

<国語>

当校の平均正答率	全国の平均正答率	新潟県の平均正答率
71%	66.8%	66%

国語は、全国平均よりも約 4 ポイント上です。指導の領域別にみると「話すこと・聞くこと」「書くこと」の正答率は全国と比較すると高く、「読むこと」の正答率は同等です。今後は、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして自分の考えをまとめて書く指導に力を入れます。

<算数>

当校の平均正答率	全国の平均正答率	新潟県の平均正答率
58%	58.0%	56%

算数は、全国平均と同じくらいです。指導の領域別にみると、「測定」「変化と関係」の正答率は全国と比較するとやや高く、「図形」の正答率はやや低いです。また、問題別にみると、分数の計算にかかわる問題の正答率が低いです。今後は、計算等の知識・技能をしっかり身に付けると共に、図形の性質の理解にも力を入れて取り組みます。

<理科>

当校の平均正答率	全国の平均正答率	新潟県の平均正答率
53%	57.1%	55%

理科は、全国平均よりも約 4 ポイント下です。指導の領域別にみると、「エネルギー」の正答率は全国と比較すると同等で、「粒子」「生命」の正答率は低いです。理科への興味関

心は高いので、今後は、科学的事象に対する理解が深まるように、単に実験するだけでなく、実験の意味や条件をしっかりと考えた上で行い、実験結果をもとに考察することに力を入れて取り組みます。

<児童質問紙>

日常生活から学習のこと、学校での過ごし方について等、さまざまな質問がありました。

肯定的評価が全国平均を大きく上回っていた質問項目は、「学校に行くのは楽しい」「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う」の2つです。今後も、子どもたちが学校生活を楽しみながら、学ぶことの喜びを味わったり様々な場面で身に付けた力を活用したりしていけるよう、児童一人ひとりの声に耳を傾けながら支援していきます。

「ICT 機器を使って情報を整理することができる」「ICT 機器で文章を作成することができる」をはじめ、ICT 機器の技能の定着や活用に関する質問項目での肯定的な回答をした児童の割合が、全国平均を上回っています。基本的な技能をしっかりと身に付けて、自信をもって ICT 機器を使えていることが伺えます。今後も、「学びを充実させるため」というタブレット使用の目的を心に留めて、マナーを守って活用していけるよう、引き続き指導していきます。

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の質問項目も、肯定的評価が全国平均を下回りました。社会では、日本の政治や歴史について、総合的な学習の時間では、地域について考え、学んでいます。どちらの教科でも、「自分ならどうしたいか」「自分に何ができるか」を思案することを大切に、地域や社会への思いを高めることのできる授業づくりに努めていきたいと思ひます。

思い出の一小祭



バザー



作品鑑賞



ふわふわスライムづくり



かたぬき



わなげ